



久慈さんもオーストリア訪問した当時の思い出を語りました

市は「姉妹都市ロイテ市・ブライテンヴァング市訪問報告会」を1月10日、市まちなか交流館で開催しました。公式訪問団報告の後、青少年交換交流事業に参加した水沢高校1年の千葉宇浩君と平帆乃佳さんが報告。「異文化をもっと学びたい」「将来も国際交流に携わりたい」など、貴重な経験の感想や今後の目標を述べました。

報告会後、本市出身のモデル・久慈暁子さんのトークショーが行われ、高校時代に同事業に参加した思い出を披露。来場者は、彼方の姉妹都市に思いを馳せました。

## 「オーストリア訪問の思い出を語る」



一糸乱れず分列行進を行う消防団員

市消防団（千葉昭道団長）の出初式が1月12日、市文化会館（Zホール）を主会場に行われました。消防団員のほか、婦人消防協力会や消防関係職員など合わせて1500人余りが参加。カルチャーパークあてのり駐車で、統監である小沢昌記市長の観閲を受け、慶徳公園前からZホール前で分列行進しました。

その後の式典では、伝統の纏振りや昨年作成した消防団歌を披露。さらに、功績のあった団員の表彰も行われ、火消しの心意気と地域防災への士気を高めました。

## 「地域防災を願い出初式で勇壮に分列行進」



本堂東側からの出火を想定した放水訓練

歴史的建造物や文化財を保持する施設を対象とした消防訓練を、1月18日と25日の日程で江刺区の松岩寺および水沢区の黒石寺で実施しました。

本訓練は、1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、毎年この時期に実施。25日の会場となった黒石寺では、消防署員や地域の消防団員など約80人が参加して伝達訓練や放水訓練を行い、有事の際の対応を確認しました。同寺の藤波洋香住職は「地域で守ってきた文化財を今後も守り続けていきたい」と文化財保護への思いを語りました。

## 「かけがえのない宝を地域で守る」



会場内に設置した「高齢者への宅配弁当情報コーナー」で担当者の説明に興味を示す参加者

市は「認知症にやさしい地域づくりフォーラム」に住み慣れたまちで共に生きるために、1月12日、市文化会館（Zホール）で開催しました。

基調講演では、県立高田病院の石木幹人名誉院長が「認知症の病気の理解と地域づくり」と題し、認知症の人が活動する場所をつくることを提言。そのほか、パネルディスカッションなども行い、会場に集まった市民や介護関係者など約350人は、認知症の人たちを支え助け合う地域づくりの重要性を再認識していました。

## 「認知症になっても安心して住めるまちづくりを」



気仙沼港で説明を受けるLCC幹部

今回の訪問では、I-LC関連部品の陸揚げと中心衝突点までの輸送経路を確認したほか、地元自治体や産業界、大学と情報交換を実施。13日は、宮城県東松島市気仙沼市長を表敬訪問したほか、気仙沼港で同港の施設などの説明を受けた後、想定される輸送経路を視察しました。

視察後には、一関市内で記者会見が開かれ、エヴァンス氏は「気仙沼港の復興の状況に感心した。輸送経路上の問題は特になかった」と視察を振り返りました。一方で「気仙沼港は非常に整った港だが、大きなコンテナの陸揚げには

向いていない」と指摘。岩手県内の港で陸揚げする可能性も示しました。

日本政府の状況については、文部科学省で有識者会議による検討が進んでいることを踏まえ「非常に真剣に取り組んでいる。我々は動きを見守っており、前向きな結果となることを期待している」と発言。文部科学省に対してしっかりとした支援をしながら、審議結果を待つことを強調しました。地元自治体に対しては

## interview

研修に参加して



江刺東中学校2年 阿部 歩果 さん（15）

研修に参加したことで、科学や物質にさらに興味を持つようになり、周りの人たちに伝えていきたいですね。将来は、I-LCに関わりたと思っていますので、英語やコミュニケーション能力を磨いていきたいです。

「将来の訪問者のために、インフラや居住環境のさらなる整備を」と訴えました。14日は、仙台市の東北大学や東北経済連合会などを訪問。建設実現に向けた協力体制について意見交換しました。

**最先端の科学に触れた生徒たち**

市教育委員会では、本年度で12回目となる中学生科学体験研修を1月6日から2泊3日の日程で実施しました。この研修に参加した市内の中学生31人は、宇宙や最先端科学の研究に触れました。

生徒たちは、茨城県つくば市にある宇宙航空研究開発機構（JAXA）や高エネルギー加速器研究機構（KEK）などを訪問。JAXAでは、施設を見学し、現在進められ

ている宇宙開発について学びました。KEKでは、測定器や加速器を見学したほか、超電導を使った実習などを行いました。

この研修の報告会が2月4日、江刺総合支所で開催されました。生徒たちは、5つのグループに分かれて研修の成果を報告。研修で学んだことを堂々と発表し、今後の学習に生かしていくことを誓っていました。



KEKの研究施設を間近で見学



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、I-LC）計画」について最新情報をお届けします

# 希望のひかり 第27回

I-LCの国際推進組織「リニアコライダーコラボレーション（LCC）」の幹部が、1月13日と14日の2日間、東北地方を訪問しました。今回は、この訪問の様子と、1月6日から8日までの日程で実施した中学生科学体験研修についてお知らせします。



注目が集まったエヴァンス氏の発言

本コーナーでは、I-LC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。お問い合わせ先：本庁政策企画課・I-LC推進室（内線4112・4115、FAX 0225-5333、E: ilc@city.oshn.late.jp）